

■大潟村農地・水・環境保全向上対策推進会議（大潟村）

- ・ 八郎湖、幹線用水路等の水質改善
- ・ S S（浮遊物質）が40%改善された。対策を継続したい。

■大内三川ほたるの会（由利本荘市）

- ・ かかし制作、ため池の復旧・泥上げ等
- ・ 非農家の参加を呼びかけ、不公平感を生じないように配慮している。

■小松・東前郷地域資源保全協議会（仙北市）

- ・ 田んぼアート、地震の被災地への支援米
- ・ 田んぼアート（秋田内陸線列車）を今年度も実施。「結い」を復活させたい。

■福地地区環境保全会（横手市）

- ・ ヒメイワダレ草の植栽、用水路等の地域のクリーンアップ
- ・ 老若男女の参加により地域の活性化が図られた。運用の緩和と活動の特例を要望。

■樽見内地域資源保全委員会（横手市）

- ・ P P S 工法による水路補修、養鯉等伝統的農法の再現、エコファームの実践等
- ・ 住民の全員参加を促し、マンネリ化を防止に務めている。年度始めに資金が不足するので交付金の早期交付をお願いしたい。

■八面資源保全会（湯沢市）

- ・ 土地改良区との連携による田植えから縄ないまで、小学生の稲作作業体験の完全実施
- ・ 老人会、親子会、児童等の参加による地域社会の纏まりが高まった。対策の継続を要望。

意見交換会

事例発表の後、意見交換会に移り、綴子大太鼓の里保全隊で非農家の参加者が1 / 3にも達しているが、どのような方法を使ったかという質問に対し、「各自治会の会長が呼びかけ、年6回発行の広報誌に掲載している。3年目で活動も定着している」との回答があった。

本対策の継続の見込みについての質問については、各地域協議会の活動の質の向上が大事であり、2期対策の策定にご協力願いたい旨の回答が東北農政局、秋田県からあった。

終わりに、東北農政局の大村課長補佐から「活動も3年目となり、着実に地域に浸透しており、活動を地域の人々が待ち望んでいる。皆様のこれまでの努力の賜物であり、引き続きご尽力下さるようお願いしたい」との発言で締めくくられた。



意見交換



事例発表

耕作放棄地再生現地研修会 三種町で開催

～放棄地の再利用に向けて～



7月23日(木)、三種町西山根において関係者約70名の参加のもと耕作放棄地再生現地研修会が開催された。



黒子会長あいさつ

開催に当たり黒子高夫秋田県耕作放棄地対策協議会長（県土連専務理事）が「今日の研修は耕作放棄地対策の実践活動の一環として、(株)クボタのご厚意により三種地区が耕作放棄地再生支援モデル地区に選定され、三種町耕作放棄地対策協議会のご協力のもと開催するものである。我が国の食料自給率の向上は喫緊の課題であり、農地の有効利用は避けて通れない情勢である。“クボタeプロジェクト”の関係者に御礼申し上げるとともに研修会の成果を期待する」と挨拶した。続いて三種地域耕作放棄地対策協議会より「耕作放棄地の再生により優良農地の確保と農地の有効利用を図りたい」と挨拶があり、加藤勝弘(株)秋田クボタ取締役営業本部長並びに玉置政嗣(株)クボタ機械営業本部東北地区長から挨拶とeプロジェクト及び耕作放棄地に対する取り組みの説明があった。

特に耕作放棄地再生支援については、H20年度、東北地方で岩手県（1団体小麦、雑穀）、福島県（2団体小麦、ソバ）で実施済みであり、H21年度は秋田県、山形県で実施予定とのことであった。

この後、馬力95PSと75PS、重量約3.4t、クローラ（ゴム製無限軌道）を履いたトラクター3台に草刈機＝サイドカッター、耕起作業機＝プラウ4連、碎土・整地機＝バーチカルハローをそれぞれ装着して放棄地の再生作業のデモンストレーションを始めた。

圧巻であったのはサイドカッターによる雑草の草刈りで、人の背丈ほどもある芦原がみるみる刈り取られて元の農地の形状が姿を現した。

その後、プラウで耕起し、バーチカルハローで整地されると20aの荒れ地が約40分で再生され、すぐにでも利用できそうな畑が誕生した。

地元、三種町耕作放棄地対策協議会では、H20年度再生実証試験圃場（畑4.3ha）をとり組み、NPO法人が一部を借り受け、ブルーベリーやソバの栽培を行っており、耕作放棄地再生事業の先進地として一般農業者への波及効果も大きい。



サイドカッターによる草刈



プラウによる耕起とバーチカルハローの整地作業

秋田県農地集団化推進協議会 第49回通常総会を開催

7月3日(金)、秋田市のホテルメトロポリタン秋田を会場に、秋田県農地集団化推進協議会第49回通常総会が、会員及び関係者ら56名が出席して開催された。総会では、佐々木紘一会長(内越土地改良区理事長)の挨拶に続き、平成21年度農地集団化事業優良地区及び功労者表彰として、6地区と2個人の表彰が行われた。その後、秋田県農林水産部の清野弘久農地整備課長、秋田県土地改良事業団体連合会(水土里ネット秋田)の黒子高夫専務理事から来賓祝辞を頂き、議案審議では、平成20年度事業報告及び収支決算、財政調整基金、会則の一部改正、平成21年度事業計画及び収支予算案などについて審議を行い、いずれも原案どおり可決され、任期満了による役員を選任も行われた。

また、事例発表では、大仙市協和の農事組合法人「たねっこ」代表工藤修氏から転作作目に大豆を取り入れ、水稲180ha、大豆55ha(H19)という大規模化により経営の黒字を成し遂げた事例が発表され、参加者の関心を集めていた。

■新役員

(任期：平成21年7月3日～平成23年総会迄)

- 会 長 佐々木紘一(内越土地改良区)
副会長 高橋 良一(十文字町土地改良区)
〃 小笠原利雄(大館市土地改良区)
理 事 鷺尾 弘(秋田県能代地区土地改良区)
〃 安藤 一郎(雄和中央土地改良区)
〃 仲村 力夫(大仙市大曲土地改良区)
〃 斎藤 喜光(羽後町土地改良区)
代表監事 三澤 敏行(北秋田市綴子土地改良区)
監 事 小松 忠彦(本荘東由利土地改良区)
〃 高橋 周作(秋田県仙北南部土地改良区)

■受賞者

【優良地区表彰】

- ◇蟹沢地区(北秋田市鷹巣土地改良区)
◇坊沢地区(北秋田市鷹巣土地改良区)
◇女米木地区(雄和中央土地改良区)
◇新波地区(雄和土地改良区)
◇大沢地区(河辺土地改良区)
◇杉沢地区(秋田県南旭川水系土地改良区)

【功労者表彰】

- ◇田中 長(琴丘土地改良区理事長)
◇高橋 勝経(美郷町千畑土地改良区理事長)



事例発表



受賞された皆さん

平成21年度 第49回通常総会開催

～秋田県土地改良事業団体職員会～

6月26日(金)、秋田市のシャインプラザ平安閣において会員108団体337名のうち、131名(委任出席175名)の出席を得て、秋田県土地改良事業団体職員会第49回通常総会が開催された。



鈴木会長あいさつ

はじめに、鈴木英弘会長(秋田市孫左衛門堰土地改良区事務局長)より挨拶があり、続いて長年に亘り土地改良区の運営及び職員会の発展に寄与のあった9名に対して、功労者表彰が行われた。

表彰終了後、来賓の秋田県農林水産部の清野弘久農地整備課長、秋田県土地改良事業団体連合会(水土里ネット秋田)の藤原正技監からの祝辞を頂き、議事審議へと移った。

渡辺政彦議長(由利本荘市滝沢堰土地改良区事務局長)の進行により平成20年度事業報告・会計収支決算及び規約の一部改正、平成21年度事業計画・会計収支予算等の議案について、いずれも原案どおり可決された。また、役員

の欠選任も行われ、雄勝支部の矢野二郎(羽後町土地改良区事務局長)が選任された。

■功労者表彰受賞者

- ・杉本 廣子(秋田市旭川筋土地改良区)
- ・真壁留美子(男鹿市五里合土地改良区)
- ・石川 司(八郎潟土地改良区)
- ・堀 芳直(内越土地改良区)
- ・山手 基(秋田県田沢疏水土地改良区)
- ・坂本 智之(秋田県田沢疏水土地改良区)
- ・鈴木真理子(秋田県南旭川水系土地改良区)
- ・深澤 直樹(秋田県南旭川水系土地改良区)
- ・藤原 周悦(羽後町土地改良区)

功労者表彰受賞おめでとうございます。



受賞された皆さん

